おきぎん調査月報

2014 7 No.478

表紙写真/サンゴ礁と熱帯魚

CONTENTS

ご覧になれます。

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.124
「人生は努力と忍耐と挑戦の連続である」
医療法人 愛和会　常務理事　宮城　初枝

4 おきぎんマーケティングレポート
第56回おきぎん企業動向調査
(2014年4～6月期)調査結果
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2014年7～9月期見通し)～

12 地域リレーションシップ情報⑮
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
大交易会オフィシャルセミナー
『商談スキル向上セミナー』の開催

16 けいざい風水

18 最近の県内経済の動向
2014年4月の県内景況

20 国内景気動向

22 沖縄マーケティング情報
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)

42 経済社会のできごと(沖縄、国内・海外)
2014年5月

44 各種セミナー等開催インフォメーション

46 おきぎん調査レポート・バックナンバー(分野別)

50 ゆがふ編集後記

おきぎんカトレアクラブ会員の皆様へは「おきぎん調査月報」をインターネットでも公表しております。
https://cattleya.okinawa-bank.co.jp/index.jsp
※「おきぎん店舗一覧」につきましては、沖縄銀行ホームページをご参照下さい。

「人生は努力と忍耐と挑戦の連続である」

医療法人 愛和会　常務理事
株式会社 那覇調剤センター　代表取締役社長
有限会社 愛和　代表取締役社長
宮城　初枝

今回は、戦前、戦後の激動の時代を力強く生き抜き、60歳にして「医療法人愛和会」を創業した、宮城 初枝 常務理事にお話を伺って参りました。

創業の心構え

私は60歳になった平成２年に、夫である会長と「医療法人愛和会」を設立いたしました。現在、81歳になります。それまでは薬局の一薬剤師として調剤をしながら小売業を営んでいました。

創業の苦労はたくさんありましたが、よく、「女性だから大変ですね」と言われます。

創業に女性、男性もありません。女性だからというのはおかしな話です。むしろ、女性に生まれて、子育てや家事もこなしながら達成できたことに、男性には味わえない喜びと誇りを感じています。

今は、ワークライフバランス、男女雇用機会均等法などで女性が優遇されていますが、私たちの時代は“２倍くらい働かないと負けてしまう”という意気込みでした。

現在、ベンチャー企業がブームかもしれませんが、経営環境が厳しいとか、補助金が打ち切られたとかで、経営を簡単に放棄する事業者も少なくありません。

経営者としての責任を持っているのか、また、経営理念を持って創業したのか問いたくなります。

私は会社が未来永劫に存続発展し、社員や家族が幸せになるためには共に成長し、共に学び、共に生きる職場を作らねばならないと考えています。

自立への想い

疎開先である宮崎での辛い日々、母の離婚、母と親子二人きりの九州での生活等、幼い時は本当に苦労しました。母はヤミ米、私は博多駅のホームで復員兵に、天ぷら、おにぎり、タバコなどを売ったりして生計を立てていた時期もありました。そうした環境の中で、「女性は自立しないといけない」と決心し、当初は弁護士になりたかったのですが、資格があれば自立できる薬剤師を目指しました。

東邦大学薬学部に通い、４年間一生懸命勉学に励んで薬剤師の国家資格を取り東京にある薬局に入社しました。入社した昭和31年当時は不景気で採用枠が狭く、内定をもらった時は１人で下宿にてカチャーシーを踊った思い出があります。

２年後には沖縄に戻り琉球製薬で働いた後に、昭和35年、那覇市の桜坂に２坪半の「宮城薬局」を開局しました。自立して、自分で経営するのが目標でした。ある意味、母のような社会に翻弄された人生が反面教師になったかもしれません。

七転び八起き

その後、借金して２万ドルの大金で平和通りの不動産を購入し、薬局を移転しました。売り上げは順調で、さあこれからという１年後、昭和54年に起きた平和通り火災で、薬局は延焼しました。

しかし、薬品メーカーの社長様や、お取引してくださっている病院等のご支援もあり、僅か１ヶ月で建物を再建することができました。『七転び八起き』の精神で再建に取り組みました。

再建した薬局はひときわネオンが明るく輝き、

焼け野原になっていた周囲とは対照的で、朝早くから夜中まで働き続けました。そうすると、周りの皆様が感心すると同時に応援していただき、それまで素通りしていたお客様も買いに来てくれました。売り上げは以前の数倍になりました。“努力は人を裏切らない”の言葉通りでした。

１年後は、ご支援してくださった薬品メーカー様の売上高で県内一となり、その翌年は九州一、それから10年間連続で九州一でした。

私は、昭和35年より平成12年頃まで、那覇市平和通りで薬局を経営していましたが、薬を購入してくださったお客様の大半は戦争でご苦労されたお年寄りであり、その恩返しをしたいという想いから医療法人の設立、介護老人保健施設「池田苑」の開設に至りました。

私の体には糸満女性のDNAが流れています。糸満女性には「金城夏子」氏や、「照屋敏子」氏等の有名な女傑が何名もいます。彼女達は時代時代に即して力強く生き抜きました。

私は少しでも彼女達の勇気と挑戦力と先見性を見習いたいと自身を発奮させました。

生きることは、学ぶこと、楽しむこと、夢を持つこと

人間と動物との大きな違いは、人間は生きるために、学び、楽しみ、夢を持ちます。

例え認知症の方でも、寝たきりの方であっても、それなりの学び方、楽しみ方、夢の持ち方があります。

那覇市おもろまちにある愛和ビル３階の「デイサービスセンターフレンドリーあいわ」では、挨拶代わりに利用者様に「元気に長生きするには？」と問い掛け、「学ぶこと」、「楽しむこと」、「夢を持つこと」と、利用者様といっしょに毎日唱和しています。

西原町にある池田苑入所には、県内最高齢の男性利用者様がいます。105歳の誕生日に「ゆいレールに乗ってみたい」と本人の望みがあり、ゆいレールを貸し切ってお祝いをしました。106歳の誕生日には、「世界遺産の識名園をもう一度みたい」という本人の望みがあり、関係機関にご協力を仰ぎ、識名園の一番座敷でご本人の得意な三線を披露していただきました。今年110歳は１日警察署長という希望をお持ちです。年を重ねても夢は広がります。

ゆいレールでの誕生会

きめ細かなお一人おひとりのご希望にあった医療・介護サービス

県内には数多くの介護系施設やクリニックがあります。

医療法人愛和会には、「訪問看護」、「訪問介護」、「居宅介護支援事業所」、「クリニック」、「デイケア」、「デイサービス」等に携わる10のサービス事業所があり、仕事に誇りと情熱をもった200名近い職員が、利用者様、患者様に対応し、きめ細かなお一人おひとりのご希望にあった医療・介護サービスを提供できるのが大きな特徴です。

今後、愛和会では有料老人ホームの展開を考えています。お一人おひとりに合った、その人らしい「人生の最後のステージ」になる有料老人ホームを目指します。

（結び）

この度、那覇市久茂地にある那覇調剤センターが開局40年を迎えました。昭和50年に県内初の調剤専門薬局として開局し、現在は古波蔵にある、あすなろ薬局と２店舗を展開しております。今後も患者様、医療機関の皆様から信頼される薬局であり続けたいと思います。

最後に、利用者様、患者様そのご家族、そして地域の皆様、そして愛する職員に感謝を申し上げます。

（みやぎ　はつえ）
宮城　初枝　氏　プロフィール

昭和８年	１月	糸満市にて出生
昭和26年	３月	福岡県 筑紫中央高校 卒業
昭和31年	３月	東邦大学部薬学部 卒業
昭和33年	４月	(株)琉球製薬 管理薬剤師
昭和35年	12月	宮城薬局 開局
昭和50年	８月	(株)那覇調剤センター 開設
平成２年	３月	医療法人 愛和会 設立
平成５年	１月	介護老人保健施設 池田苑 開設　常務理事 就任
平成19年	４月	(有)愛和　代表取締役社長 就任
平成25年	８月	(株)那覇調剤センター　代表取締役社長 就任

医療や福祉・介護に関することは、
お気軽にご相談ください。
愛和会相談室　TEL：098-946-2000

○愛和ファミリークリニック
在宅療養支援診療所
〒900-0006
那覇市おもろまち３丁目６番３号
愛和ビル２Ｆ
TEL：098-941-7255

○デイサービスセンター
フレンドリーあいわ
愛和ビル３Ｆ
TEL：098-941-8115

○那覇市地域包括支援センター
おもろまち
愛和ビル３Ｆ
TEL：098-860-3747

○グループホームビボあいわ
愛和ビル４Ｆ
TEL：098-941-8228

○あいわ居宅介護支援事業所
愛和ビル５Ｆ
TEL：098-941-2125

※１Ｆは駐車場

○介護老人保健施設　池田苑
〒903-0115　西原町字池田 757 番地
TEL：098-946-2000
http://www.aiwakai.jp
３Ｆ　入所・短期入所
２Ｆ　入所・短期入所
１Ｆ　デイケア

○訪問看護ステーション和
所在地 / 連絡先：池田苑内１Ｆ

○ヘルパーステーションなごみ
所在地 / 連絡先：池田苑内１Ｆ

○あいわクリニック
〒903-0115
西原町字池田 766 番地２
TEL：098-946-5558
３Ｆ　デイケア / デイサービス
２Ｆ　パワーリハビリハビネスあいわ
１Ｆ　外来
小児科・内科
リハビリテーション科

○グループホームさわふじ
〒903-0124
西原町字呉屋 73 番地１
TEL：098-946-6188

○デイサービスあいわ殿内（どうんち）
〒903-0807
那覇市首里久場川町 1−62−2
TEL：098-871-4020

○なごみ居宅介護支援事業所
〒903-0123
西原町字津花波 150 番地２
TEL：098-944-1161

医療法人 愛和会　http://www.aiwakai.jp

けいざい風水

消費税増税と県内業況感

景気拡大の動きに寄与

3月までの国内景気は、消費税率引き上げを見据えた動きが顕著に現れ、内閣府でも「緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が強まっている」と景気判断しており、回復力に一層の力強さが見られました。

増税を含む外的要因と需要動向について、過去の事例などを参照すると、まず、購入金額が大きく、納入にある程度の時間が必要な住宅関連の投資などが活発化し、その後に金額の小さな家電や自動車などの耐久消費財の購入、直前になると事務関連商品などの購入へ連鎖して動くことが見られました。ここで、「おきぎん企業動向調査」結果を見ると、継続的な観光需要や建設投資などの好調さ、消費税増税前の駆け込み需要の影響なども加わり、業況マインドもプラスで推移しています。

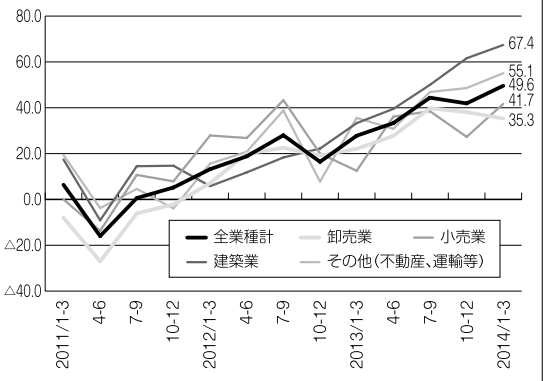
増税に関する動きにフォーカスすると、「建築業」や不動産業などの「その他のサービス業」においては2012年7～9月ごろから、小売業では13年7～9月ごろから自動車や家電などの耐久消費財購入の動き、「卸売業」では14年1～3月ごろから建築資材購入などに対する駆け込み需要が見られ、業況感のプラスに寄与しています。

このように県内でも業種ごとでタイムラグが見れるものの、増税目前とした動きが顕著に見られ、景気拡大の動きに寄与していることが分かります。4月以降、一時的に景気の勢いが弱まると予想されますが、その後、堅調な観光需要などに支えられる形で持ち直しの動きが期待されます。

しかし、継続的な生活（調達）コストの上昇が景気マインドを低下させる可能性があることから、並行して企業（個人）所得の実質的な向上に向けた取り組みが必要となってきます。

（おきぎん経済研究所　研究員　當銘　栄一）

県内の各業種における景況感の推移



県内コンビニ事情

店舗シェアに地域性

琉球新報2月20日の記事で沖縄ファミリーマート石垣出店が報道されました。現在、石垣に出店しているコンビニエンスストア（以下コンビニ）はココストアのみであるため、今回の沖縄ファミリーマートの石垣進出からは、石垣経済の好調さがうかがえます。

経済産業省の商業統計によるコンビニの定義は、売り場面積が「30平方㍍以上250平方㍍未満」、営業時間が「14時間以上」などです。24時間営業が一般的なため、小売業の中でも売り場面積当たり販売額が最も高く、その半面、従業員1人当たり販売額が低いと言われています。

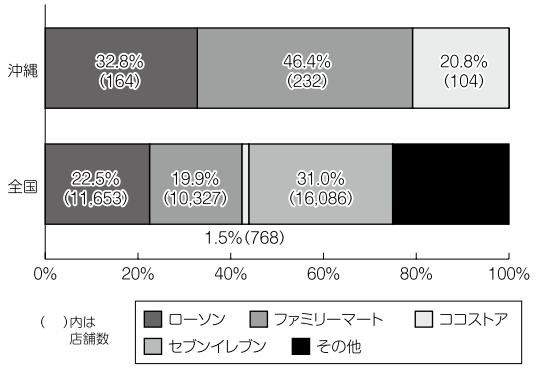
一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会によると2013年のコンビニ店舗数は4万9,323店で、国内シェアのトップはセブン－イレブンの1万6,086店、2位がローソンの1万1,653店、3位がファミリーマートの1万327店となっており、売上高は9兆3,860億円に上ります。

時期は違いますが10年度の沖縄県内総生産（内閣府）の3兆7,260億円の2.5倍になります。経済規模もさることながら、私たちの普段の生活においても飲食品・日用品などのほか、宅配便・各種チケットの受け取りから公共料金の支払いまでさまざまなサービスをコンビニは提供しています。

沖縄には現在、ファミリーマート、ローソン、ココストアの3社が展開しており、シェアのトップはファミリーマートの46.4％、2位がローソンの32.8％、3位がココストアの20.8％となっています。沖縄にはセブン－イレブンがなく、他府県に比べてファミリーマート、ココストアの店舗シェアが高いなど、地域性が見られます。消費者と時代のニーズに応じて登場したコンビニは、これからもより「便利」に、私たちの生活に密着した場になるものと思われます。

（おきぎん経済研究所　研究員　奥平　均）

沖縄と全国のコンビニエンスストア比較



睡眠口座

活用策で国民的議論を

皆さんは、「睡眠口座」という言葉を聞いたことがありますか？思い出してみてください、次のように金融機関で預金口座を作った経験はありませんか？①学生のころ、アルバイト給与の振込先として口座を作ったけれど、会社に入って給与振込口座を再度作った②子どものころ、お年玉用口座として親が作った③転勤先の近くの金融機関で口座を作ったが、別の地域に転勤した等々。

日本では口座を管理する手数料を無料としている金融機関が多く、預金者は案外そのままにしてしまうためか、日本中には約12億の口座があるとされています。その中でもお金を入れたり出したりしないまま、10年以上たってしまった口座のうち、「預金残高が1万円以上で預けた人と連絡がとれない口座」「預金残高が1万円未満の口座」を「睡眠口座（または休眠口座）」と言います。

全国の金融機関では1年間に800億円～900億円の睡眠口座が発生しているといわれています。そのうち約4割程度は申し出により引き出しされていますが、それでも450億円～550億円は金融機関に残ったままです。

このような状況下、東日本大震災をきっかけに睡眠口座を社会や経済のために利用できないかという議論もあります。実際、海外においては障がい者支援や貧困対策などに利用しているケースも見られますが、日本国内の銀行等では「会計上利益としているが本預金は元来お客さまのものであり、申し出があれば払い出しするものである」とする対応が多いことから、活用については慎重に議論を重ねていく必要があると思われます。今後は、このような「眠ったままのお金」をどうやって「起こす（有効利用する）」かについて、国民皆で広く話し合っていくべきだと思います。

（沖縄銀行　田原支店長　與儀　健一郎）

睡眠口座の特徴

①	長期間預金者から入出金がない
②	上記①の要件を満たし、残高が1万円未満
③	上記①の要件を満たし、残高が1万円以上だが、金融機関から預金者へ連絡がとれない
④	例外を除き、睡眠口座となっても払い出しすることは可能

※注意：上記はあくまでも一般的に挙げられる事項。上記とは異なる内容で睡眠口座の対応をしている金融機関もある

14年度の住宅市場動向

税率10％控え活況も

2014年4月1日に消費税率が5％から8％に引き上げられ、約1ヵ月が経過しますが、今後の住宅市場動向が気になるところです。

住宅金融支援機構の14年度「住宅市場動向について」によると、ヒアリング・アンケートをした住宅事業者775社の約7割が、14年度の住宅受注・販売などの見通しについて「13年度と同程度、または増加」を見込むと回答しています。その要因としては「自社商品の充実・改善（48.4％）」「消費税率引き上げ（8％→10％）前であること（40.1％）」「営業手法の強化・改善（35.7％）」などが挙げられています。

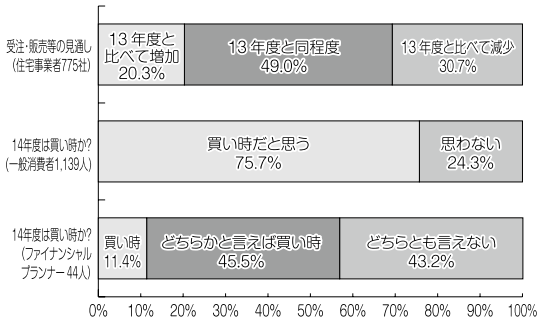
同調査では14年度の住宅の買い時感についてもインターネットにより調査しており、14年4月1日以降に住宅取得を検討中である一般消費者1,139人の約76％が「買い時だと思う」としています。要因として「今後消費税率が10％に引き上げられる予定だから（51.4％）」、「住宅ローン金利が低いから（47.8％）」、「今後住宅ローン金利が上がると思うから（32.5％）」などが主な回答となっています。

また、同調査では、ヒアリング・アンケートをしたファイナンシャルプランナー44人の約57％が「買い時」または「どちらかといえば買い時」と回答しており、要因として「住宅ローン金利の低水準（96.0％）」「金利先高観（48.0％）」「消費税率引き上げ（5％→8％）後の対応策（住宅ローン減税等）が充実（32.0％）」などが挙がっています。

この調査結果から、15年10月に予定されている消費税率10％への引き上げを控え、住宅市場が引き続き活況を呈する可能性があることがうかがえます。皆さんも、ご家族と共にじっくりとライフプランや資金計画などを話し合い、夢のマイホーム取得の準備に取り掛かってみてはいかがでしょうか？

（沖縄銀行 ローンFPステーションとよみ店長　宮城　達）

2014年度の住宅市場動向



※かっこ内は調査対象者
出所）住宅金融支援機構「住宅市場動向」

ゆがふ編集後記

沖縄の城跡

本誌読者の皆様も首里城や中城城、座喜味城、今帰仁城など、琉球王国時代、またそれ以前の三山時代やグスク時代の城跡が、沖縄のいたるところに存在することはご承知と思います。その数は一説によれば県内に大小300近く存在すると言われており、驚く限りです。

城跡めぐりがとても好きで、晴れた休日などはよく出かけ、各地の城跡をうろうろしていますが、沖縄の城跡めぐりにはある特徴があります。それは、そこにほとんど人がいない、という事です。世界遺産に指定されている、首里城や中城城など、いわゆる有名どころの城跡は別として、多くの城跡には、観光客や地元の人を含め、そこにはあまり人がいない（来ない）のです。小規模の城跡の多くは鬱蒼とした木々や、草木に覆われ、崩れた石垣が木々の根っこにからまり、自然の推移に任せるままの状態です。何百年も風雨にさらされ、ほんとうにこのままでいいのか、開発などでなくなってしまわないかと、心配になります。

個人的には、うるま市にある勝連城が好きで、飽きずに何度も見に行きます。気高く天に向かって積み上げた城壁を仰ぎ見ると、かつての城主、阿麻和利の心意気が伝わってきて、気分も高揚してきます。ほんとうにウチナーンチュが世界に誇れる、すばらしい城だと思います。南城市にある糸数城も好きです。今帰仁城にも負けない、雄大な規模を誇り、石組みも見事です。また、南部の、あるゴルフ場の3番ホールから見える（ティーショットの目標になっている（不遜でした！））、自然石をくり貫いた入り口が見事で琉球最古の城に属するといわれる玉城城。しかし、それぞれ、やはり人がほとんど、いないのです。休日にもかかわらず、です。

今、沖縄県では、観光客の増加や宿泊日数の増加を目指し、いわゆる「着地型観光」の推進に力をいれています。着地型観光には、自然、文化、歴史をはじめ、スポーツイベントや各地の催し物を地域資源として活用していこう、という試みです。

沖縄の城跡は、そういう意味で、ほんとうに貴重な観光資源であり、いまこの多くの「宝物」が眠ったままの状態にある、と個人的には思っています。城跡ファンとしては、沖縄に、すばらしいグスクの歴史が存在した、ということをアピールしたいし、そのためには、城跡のある自治体含め各地域が、子供たちへの歴史教育も含め、もっと地元の城跡に関心を持って、まずはその保全と整備に取り組んでもらいたいと思います。そして、城の歴史と、ストーリー性を伴った観光資源化に積極的に取り組んでもらいたい、と思います。

将来的には、それぞれの地域で、整備された公園などの中心にそびえる城跡が、昼は観光客や地元の人々が集い、夜はライトアップされ、地域のランドマーク的存在になっている姿を想像するだけで、わくわくしてきます。いつの日か、そうなる日が早く来ないか、と夢想している、今日この頃です。

（㈱おきぎん経済研究所　代表取締役社長　出村郁雄）